

富士宮市文化財年報

第6号

平成27年度



2017
富士宮市教育委員会

富士宮市文化財年報

第6号

平成27年度

2017
富士宮市教育委員会

例 言

- 1 本書は、平成 27 年度に実施した富士宮市内における文化財保護事業の概要をまとめたものである。
- 2 文化財保護事業は、文化財保存・管理事業、埋蔵文化財事業、郷土資料館事業、歩く博物館事業、その他の事業に分類した。
- 3 本書の執筆・編集は、富士宮市教育委員会教育部文化課及び埋蔵文化財センターの各担当（平成 28 年度）が行った。
- 4 平成 27 年度文化財関係組織

教 育 長	池谷 眞徳
教 育 部 長	芝田 英洋
文 化 課 長	小田 剛男
文化課参事兼埋蔵文化財センター所長	伊藤 昌光
主幹兼学術文化財係長	渡井 英誉
同 学 芸 員	保竹 貴幸 (文化財管理担当)
同 技 師(道路課技師併任)	志村 純平 (史跡整備工事担当)
埋蔵文化財センター学芸員	梶山 沙織 (歴史・民俗担当)
同 学 芸 員	松本 将太 (歴史・民俗担当)
同 学 芸 員	永田 悠記 (埋蔵文化財担当)
同 嘱 託 員	馬飼野 行雄 (埋蔵文化財担当)
同 嘱 託 員	志村 和恵 (歴史・民俗担当)
同 嘱 託 員	五味 奈々子 (埋蔵文化財担当)
同 嘱 託 員	鈴木 翔太 (埋蔵文化財担当)
社会教育指導員(郷土資料館長)	渡井 一信

《表紙写真：歩く博物館探索会の様子》

目次

富士宮市文化財年報第6号の刊行にあたって	1
I 平成27年度の文化財保護事業	
1 概要	4
2 文化財保護事業一年の歩み	5
II 文化財保存・管理事業	
1 文化財保護審議会	7
(1) 文化財保護審議会の開催	
(2) 文化財保護審議会委員の改選	
2 指定文化財整備事業	7
(1) 史跡「富士山」整備事業	
(2) 名勝及び天然記念物「白糸ノ滝」整備事業	
(3) 史跡「大鹿窪遺跡」整備事業	
3 指定文化財保存管理事業	10
(1) 富士宮市文化財保護補助金の交付	
(2) 指定文化財保護対策事業	
(3) 文化財防火デー	
4 未指定文化財調査事業	12
(1) 初申祭調査	
(2) 盆行事(川供養)調査	
(3) どんど焼き・小正月行事調査	
(4) 庚申塔調査	
III 埋蔵文化財事業	
1 市内遺跡発掘調査事業(補助事業)	15
(1) 史跡富士山「山宮浅間神社」(現地調査)	
(2) 史跡富士山「村山浅間神社・大日堂」(資料整理・報告書刊行)	
2 発掘調査報告書作成	16
(1) 城山遺跡	
(2) 大中里坂下遺跡	
3 史跡整備に伴う確認調査	18
(1) 浅間大社遺跡(1回目) 「史跡富士山」	
(2) 山頂信仰遺跡(富士山本宮浅間大社奥宮) 「史跡富士山」	
(3) 浅間大社遺跡(2回目) 「史跡富士山」	
4 開発行為に伴う試掘・確認調査	21
(1) 野中向原遺跡	
(2) 三ツ室遺跡	
(3) 田中遺跡	

(4) 箕輪B遺跡	
(5) 泉遺跡	
(6) 蟹入越遺跡 ①	
(7) 荻間遺跡	
(8) 峯石遺跡	
(9) 月の輪上遺跡	
(10) 蟹入越遺跡 ②	
(11) 根方遺跡	
(12) 東田遺跡	
(13) 権現遺跡	
5 富士宮市埋蔵文化財センター	28
(1) 施設概要	
(2) 企画展示	
IV 郷土資料館事業	
1 展示	29
(1) 常設展示	
(2) 企画展示	
(3) その他の展示	
(4) 展示会関連事業	
2 資料収集・保存管理	30
(1) 資料収集	
(2) 保存管理	
3 古文書等解読刊行事業	30
(1) 旧北山村役場文書刊行事業	
V 歩く博物館事業	
1 探索会	31
VI その他の事業	
1 問合せ対応	31
2 小中学校総合学習への対応	31
3 講師派遣	31
資料 i 「山宮浅間神社遺跡発掘調査報告」展配布資料	32
資料 ii 「史跡富士山 村山大日堂」展配布資料	34
資料 iii 「昔日のふじのみや」写真展配布資料	36
資料 iv 「庚申信仰」展配布資料	40
資料 v 第1回歩く博物館探索会「安居山・沼久保地区」配布資料	45
資料 vi 第2回歩く博物館探索会「大鹿窪・下柚野地区」配布資料	47
資料 vii 各委員会等委員名簿	49
資料 viii 富士宮市内指定文化財等一覧	51

富士宮市文化財年報第6号の刊行にあたって

文化課長 佐野 宏幸

「富士宮市文化財年報」第6号の刊行にあたり、富士宮市における文化財保護行政の動きや富士宮市の文化財をめぐる出来事について、平成27年度を振り返ってみます。

1 世界遺産富士山の構成資産整備

世界遺産富士山については、構成資産である文化財の本質的価値を保存し、次世代に継承するとともに、その活用を図るため、平成24年3月に策定した「『史跡富士山』整備基本計画」、「名勝及び天然記念物『白糸ノ滝』整備基本計画」に沿って、構成資産の整備を行っています。

その整備について、平成27年度の実施状況を見てみますと、まず、山宮浅間神社については、これまで行ってきた発掘調査と現況調査に基づく整備の実施設計が平成26年度で終了し、平成27年度から整備工事を開始しました。平成27年度では、遥拝所を前景に富士山を望むことができる展望場の整備や階段の修復などが終了し、史跡内を快適に見学できる環境が整いました。平成28年度は引き続き、遥拝所の立入防止柵の改修や参道の照明の改修を行う予定になっています。

人穴富士講遺跡においては、現在立ち入りを禁止している洞穴の公開を視野に入れ、適切な整備や工法、安全対策を検討するために、洞穴の地盤や地質、内部環境の調査を実施しました。併せて、富士講の信仰の歴史調査も実施しました。今後、洞穴の整備や碑塔群の修復、歩経路の整備などを検討していき、遺跡が示す歴史を実感しながら、安全に見学できる環境づくりを進めていきます。

また、名勝及び天然記念物「白糸ノ滝」では、展望場のほか、白糸自然公園への連絡通路などの整備が完了し、滝越しに富士山を望む景観や、白糸自然公園側からのアプローチなど、新たな魅力ある景観を創出することができました。

各構成資産の整備については、ユネスコの世界遺産センターに提出された推薦書の付属資料である包括的保存管理計画に記載された整備・公開・活用の促進を具現化するものとして、今後も取り組んでいくことになります。



写真1 山宮浅間神社 展望場



写真2 白糸ノ滝 展望場

2 文化財保護・調査等への継続的取組

富士山をはじめ、毎年続く世界遺産登録に日本中が沸き、世界遺産関係の文化財に注目が集まる近年ですが、歴史豊かな富士宮市には、他にも継続的に保護や調査に取り組むべき多くの文化財があります。

平成 27 年度は、文化財保護事業として国指定特別天然記念物「狩宿の下馬ザクラ」と県指定天然記念物「猪之頭のミツバツツジ」の施肥・消毒、県指定天然記念物「西山本門寺の大ヒイラギ」のウメノキダケ剥離・殺菌剤散布を行い、文化財樹木の保護を図りました。

埋蔵文化財発掘調査としては、史跡整備に伴う山宮浅間神社の発掘調査を実施するとともに、富士山の山頂信仰遺跡などの調査を行ったほか、発掘調査の報告書として、村山大日堂の資料を整理した「村山浅間神社遺跡Ⅱ」と、城山遺跡・大中里坂下遺跡の調査成果をまとめた「富士宮市の遺跡Ⅴ」を刊行しました。開発行為に伴う埋蔵文化財の確認については、野中向原遺跡、三ツ室遺跡、月の輪上遺跡などにおける試掘・確認調査を行いました。

また、歴史民俗分野では、旧北山村役場文書の解読を継続するとともに、盆行事をはじめとした民俗行事の調査を引き続き行うなど、各分野で重要な成果を上げることができました。歩く博物館については、旧芝川町との市町合併後に追加した芝川地区の6コースを加えたガイドブックの改訂版と、芝川地区6コースのパンフレットを平成 27 年度で作成しました。この改訂版には、芝川コースの追加のほか、整備後の構成資産の写真や新しいトピックスを載せるとともに、観光コースを紹介するページも付録として掲載しています。

これら各分野での調査研究の成果を公表し、文化財に親しみと理解を深めていただくための取組として、平成 27 年度は、郷土資料館で「史跡富士山 村山大日堂展」や「昔日のふじのみや展」、「庚申信仰展」といった企画展示を実施したほか、安居山・沼久保地区、大鹿窪・下柚野地区、大宮東地区での歩く博物館探索会を開催するなど、さまざまな形で、文化財についての啓発に努めました。



写真3 富士山山頂信仰遺跡調査



写真4 歩く博物館ガイドブック・パンフレット

3 埋蔵文化財センターの現状と今後

平成 27 年 6 月 1 日で、埋蔵文化財センターが開館 1 周年を迎えました。埋蔵文化財センターは、埋蔵文化財の発掘調査及び研究を実施し、出土品及び関連する資料を保存するとともに、資料を活用して富士宮市の歴史に対する理解を深め、市民の教育や、市の学術文化の発展に寄与することを目的としている施設です。

事業内容は、埋蔵文化財の調査・研究・整理及び出土資料の収蔵、埋蔵文化財の展示、体験学習教室や講座などの開催であり、平成 27 年度には、土器などの常設展示のほか、「山宮浅間神社遺跡発掘調査報告展」や、「柚野の里まつり」における大鹿窪遺跡出土遺物の展示及び遺跡の解説などを実施しました。

埋蔵文化財センターとしては、第一に、約半世紀にわたり行われてきた市内の埋蔵文化財の発掘調査による膨大な出土資料を集約・保管し、調査・研究・公開するという機能を果たすというところがありますが、さらに、埋蔵文化財を核としながら、民俗資料や文献資料も集約し、学芸員が常駐して調査・研究を行い、成果を生かした公開や講座を行うといった、文化財活用の企画を行う拠点としても機能していくという役割を担っています。引き続き、皆さんに親しまれる施設として機能するよう、その充実に努めていきたいと思っております。



写真 5 埋蔵文化財センター



写真 6 発掘調査現地説明会
(山宮浅間神社)

4 むすびに

今が正念場である世界遺産富士山の構成資産整備をはじめ、多種多様にわたる文化財の保護や調査、整備など、待ったなしの課題が山積する当市の文化財行政であります。今後とも、文化財の保護を図りながら、市内の歴史的、文化的資産の一層の掘り起こしに努め、調査研究の成果を市民の皆さんに還元することを使命として、さまざまな事業を実施していきたいと考えています。

富士宮市の豊かな歴史を守り伝えていくために、これからも、関係者の皆さんのご支援とご協力をいただきますようお願いいたします。

I 平成 27 年度の文化財保護事業

1 概要

富士宮市における平成 27 年度の文化財保護関連事業の概要は、下記のとおりである。

〈文化財保存・管理事業〉

史跡「富士山」、名勝及び天然記念物「白糸ノ滝」、史跡「大鹿窪遺跡」の各文化財について、今年度も各委員会の指導を得て調査・整備等の事業を実施した。史跡「富士山」については、過年度から調査してきた史跡富士山「大宮・村山口登拝道」の調査報告書を刊行した。

その他、市内指定文化財の保存・管理事業への補助金の交付や未指定文化財の調査等、文化財の保存・管理事業を推進した。

〈埋蔵文化財事業〉

国・県の補助金を受けて、史跡整備に伴う史跡富士山「山宮浅間神社」の発掘調査を実施した。また、平成 26 年度に発掘調査した史跡富士山「村山浅間神社・大日堂」の資料整理作業を行い、発掘調査報告書「村山浅間神社遺跡Ⅱ」を刊行した。

平成 25 年度に発掘調査した「城山遺跡」と「大中里坂下遺跡」について資料整理作業を行い、発掘調査報告書「富士宮市の遺跡Ⅴ」を刊行した。

史跡整備に伴う確認調査として、史跡富士山の「山頂信仰遺跡」など 3 件の調査を行った。また、開発行為に伴う埋蔵文化財の試掘・確認調査を 13 件実施した。

埋蔵文化財センター事業として、土器等の常設展示や開館 1 周年記念の企画展示、「柚野の里まつり」における大鹿窪遺跡出土遺物の展示及び遺跡の解説を行った。

〈郷土資料館事業〉

郷土資料館において、常設展のほか、「史跡富士山 村山大日堂」展、「昔日のふじのみや」写真展、「庚申信仰」展の計 3 回の企画展を開催し、あわせて関連事業を開催した。

また、郷土資料館以外では、長屋門「歴史の館」で富士山信仰に関する展示等を行い、富士山環境交流プラザで企画部富士山世界遺産課との共催により山宮浅間神社の発掘調査成果等を紹介する「世界遺産の構成資産を知る！」展を開催した。

資料収集・保存管理事業として、民俗資料等の収集や収蔵品くん蒸を実施し、古文書等解説刊行事業として、旧北山村役場文書の解説作業を平成 26 年度に引き続き実施した。

〈歩く博物館事業〉

歩く博物館探索会を 3 回実施した。1 回目は郷土資料館「富士に息づく文学碑」展の関連企画として安居山・沼久保地区で実施し「別所の道祖神」「渡船場跡」などを探索した。2 回目は大鹿窪・下柚野地区で実施し「大鹿窪遺跡」「大堀用水」などを探索した。3 回目は大宮東地区で実施し「悪王子神社」「大頂寺」などを探索した。

芝川地区の6コースのパンフレットを作成し、同コースを追加した「歩く博物館ガイドブック 改訂版」を刊行した。

〈その他の事業〉

市内の歴史・民俗等に関する問合せに対応したほか、小中学校の総合学習（富士山学習）への対応や、富士山まちづくり出前講座等の講師を務めた。

文化課主管事業以外の市実施事業として、市指定有形文化財「井出家高麗門及び長屋」の改修事業、「史跡富士山」の富士山本宮浅間大社内にある神田川ふれあい広場の整備事業（共に観光課主管事業）が行われた。



写真7 「井出家高麗門及び長屋」
茅葺き替え



写真8 ふれあい広場（親水池）

2 文化財保護事業一年の歩み

〈平成27年〉

- 4月2日 初申祭調査実施（富士山本宮浅間大社・山宮浅間神社）。
- 4月9日 野中向原遺跡埋蔵文化財確認調査実施。
- 4月16日 三ツ室遺跡埋蔵文化財確認調査実施。
- 5月20日 田中遺跡埋蔵文化財確認調査実施。
- 5月23日 第1回歩く博物館探索会（安居山・沼久保地区）開催。
- 5月28日 名勝・天然記念物「白糸ノ滝」展望場オープニングセレモニー。
- 6月16日 箕輪B遺跡埋蔵文化財確認調査実施。
- 6月18日 泉遺跡埋蔵文化財確認調査実施。
- 6月22日 史跡「富士山」浅間大社遺跡埋蔵文化財確認調査実施（6月25日まで）。
- 6月30日 蟹入越遺跡埋蔵文化財確認調査実施。
- 7月1日 埋蔵文化財センター「山宮浅間神社遺跡発掘調査報告」展開催（9月25日まで）。
- 7月21日 史跡「富士山」山宮浅間神社埋蔵文化財発掘調査実施（11月13日まで）。

- 7月21日 史跡「富士山」山頂信仰遺跡埋蔵文化財確認調査実施（7月22日まで）。
- 7月22日 第1回文化財保護審議会開催。
- 7月25日 郷土資料館「史跡富士山 村山大日堂」展開催（11月8日まで）。
- 8月15日 盆行事（川供養）調査実施（富士川・芝川流域。8月16日まで）。
- 8月29日 郷土資料館「世界遺産の構成資産を知る！」展（共催：富士山世界遺産課。
於：富士山環境交流プラザ。）開催（9月27日まで）。
- 9月10日 史跡「富士山」浅間大社遺跡埋蔵文化財確認調査実施（10月16日まで）。
- 9月14日 第1回史跡富士山整備委員会開催。
- 9月14日 荻間遺跡埋蔵文化財確認調査実施。
- 10月7日 峯石遺跡埋蔵文化財確認調査実施。
- 10月14日 第2回歩く博物館探索会（大鹿窪・下柚野地区）開催。
- 10月20日 月の輪上遺跡埋蔵文化財確認調査実施。
- 10月30日 第2回文化財保護審議会開催。
- 11月4日 蟹入越遺跡埋蔵文化財確認調査実施。
- 11月6日 郷土資料館展示物等くん蒸事業実施（11月8日まで）。
- 11月21日 郷土資料館「昔日のふじのみや」写真展開催（平成28年2月28日まで）。
- 11月28日 「柚野の里まつり」で大鹿窪遺跡の出土遺物の展示と解説を実施。
- 12月4日 根方遺跡埋蔵文化財確認調査実施。
- 12月17日 東田遺跡埋蔵文化財確認調査実施。
- 12月18日 権現遺跡埋蔵文化財確認調査実施。

〈平成28年〉

- 1月8日 どんど焼き・小正月行事調査実施（市内各所・富士市・沼津市・山梨市。1月9日まで）。
- 1月26日 文化財防火デー。
- 2月1日 庚申塔調査実施（市内各所。3月まで。）。
- 2月6日 第3回歩く博物館探索会（大宮東地区）開催。
- 2月12日 指定文化財保護対策事業完了（狩宿の下馬ザクラ、猪之頭のミツバツツジ、西山本門寺の大ヒイラギ）。
- 3月14日 第2回史跡富士山整備委員会開催。
- 3月16日 史跡大鹿窪遺跡整備基本計画策定委員会開催。
- 3月19日 郷土資料館「庚申信仰」展開催（7月10日まで）。
- 3月22日 発掘調査報告書『村山浅間神社遺跡Ⅱ』刊行。
- 3月25日 史跡調査報告書『史跡富士山 大宮・村山口登拝道調査報告書』刊行。
- 3月31日 発掘調査報告書『富士宮市の遺跡Ⅴ』刊行。
- 3月31日 『富士宮市歩く博物館ガイドブック 改訂版』刊行。

II 文化財保存・管理事業

1 文化財保護審議会

(1) 文化財保護審議会の開催

第1回 開催日：平成27年7月22日（水）

内 容：市指定有形文化財「井出家高麗門及び長屋」の修理、市指定天然記念物「寛妙寺のイヌマキ」の整備、国指定史跡「富士山」（村山浅間神社・大日堂、山宮浅間神社）の整備、国登録有形文化財「吉澤家住宅煉瓦蔵」の登録についての報告。

第2回 開催日：平成27年10月30日（金）

内 容：委員委嘱状交付。会長・副会長選出。市指定文化財の新指定候補の検討。

(2) 文化財保護審議会委員の改選

平成27年8月31日で富士宮市文化財保護審議会委員及び富士宮市立郷土資料館運営協議会委員の任期が満了となったため、委員の改選を行った。

2 指定文化財整備事業

(1) 史跡「富士山」整備事業

史跡「富士山」（平成23年2月7日指定）について、史跡富士山整備委員会の指導を受けながら、史跡整備事業を実施した。また、便益施設及び史跡内の管理（草刈り等）については地元の地域団体等に委託して実施した。

ア 史跡富士山整備委員会の開催

第1回 開催日：平成27年9月14日（月）

内 容：平成27年度の調査・整備事業計画の説明。（山宮浅間神社の調査と整備、人穴富士講遺跡の調査と整備等）

第2回 開催日：平成28年3月14日（月）

内 容：平成27年度の調査・整備事業の報告説明（人穴富士講遺跡の調査、大宮・村山口登拝道の調査、神田川ふれあい広場（富士山本宮浅間大社内）の整備等）。

平成28年度の調査・整備事業計画の説明（山宮浅間神社の整備、人穴富士講遺跡の整備等）。

イ 各構成資産の調査・整備

(ア) 大宮・村山口登拝道調査

大宮・村山口登拝道は、大宮の浅間神社、村山の興法寺を經由して富士山頂へと至る登山道で、現在の富士宮口六合目以上が史跡富士山として指定されている。

平成 24 年度以降実施してきた登拝道の現地調査、民俗調査、文献調査の成果を整理し、『史跡富士山 大宮・村山口登拝道調査報告書』として刊行した。

(イ) 山宮浅間神社整備事業

拝殿・本殿がなく富士山を直接遥拝する、古代からの富士山祭祀の形態を留めているとされる山宮浅間神社について、遥拝所前に富士山遥拝のための展望場を設置したほか、階段改修、案内板の設置等を行った。



写真9 展望場



写真10 階段

(ウ) 人穴富士講遺跡調査事業

富士講の開祖長谷川角行が修行したとされる溶岩洞穴「人穴」や、人穴に参拝した富士講の人々が建立した碑塔群などから構成される人穴富士講遺跡について、現況調査や歴史調査を行った。

① 溶岩洞穴「人穴」環境調査・地盤特性・地質精査等調査

溶岩洞穴「人穴」の内部公開を検討するため、洞穴内部の温度・湿度・炭酸ガス等の状況や溶岩等の安全性の現状調査を行い、安全性や景観性を踏まえた整備の施工方法・公開ルートを検討した。

② 周辺地形測量

人穴富士講遺跡の史跡整備の参考とするため、旧道等を把握するための周辺の測量調査を実施した。

③ 富士講調査

人穴富士講遺跡に碑塔を建立した富士講講社の存続状況や、各地に残る資料についての調査を実施した。調査結果は、平成 28 年度に実施予定の補足調査とあわせて、調査報告書として刊行する予定である。



写真 11 中里の富士塚（東京都清瀬市）



写真 12 人穴富士講遺跡 碑塔群

表 1 富士講現地調査一覧

No	調査先	調査目的 (調査対象講)	概要
1	山梨県富士吉田市	富士講の現況について（全般）	富士吉田市を訪れる富士講の現況、ふじさんミュージアム内に移築された碑塔類・所蔵資料等の調査
2	三重県津市	食行身禄関係資料	食行身禄生誕地において身禄関係資料等の調査
3	東京都内各所	富士塚開山祭	都内の富士塚開山祭の実施状況・講社の現況について調査
4	富士宮市人穴	扶桑教人穴参拝	扶桑教の人穴参拝の調査
5	山梨県富士吉田市	吉田の火祭り及び参加講社の現況	吉田の火祭りに参加する講社の確認・講社への聞取調査等
6	富士宮市猪之頭	富士教	富士教教員への聞取調査
7	山梨県富士吉田市 (富士山ミュージアム)	講社・先達への聞取	富士講先達への聞取調査
8	山梨県立博物館	富士講の資料・現況について及び所蔵資料	所蔵資料調査及び山梨県が実施している富士講調査の状況についての情報交換
9	浜松市三ヶ日町	浜名西別海講中	関係資料（造立碑塔類・古文書資料等）の所在調査
10	神奈川県川崎市・横浜市	立川講・神奈川県内の富士講	川崎を本拠地とする立川講について関係資料調査・関係者への聞取調査、神奈川県内の富士塚・碑塔類の調査
11	市川大門市	大我講	市川三郷地区を本拠地とする大我講の関係資料（碑塔類）調査
12	千葉県内房地域	内房地区の富士講（一山講・山水講・山包講・山三講等）	一山講青柳講社への聞取調査、現地に所在する富士塚・碑塔類の調査等
13	須走浅間神社	山三講	須走浅間神社境内に移築・築造された碑塔類の調査
14	東京都多摩地域	丸嘉講	丸嘉講田無組関係資料（古文書・民俗資料）、富士塚・碑塔類の調査
15	山梨県富士吉田市 (富士山ミュージアム、中ノ茶屋)	富士講の現況、山三講	富士吉田市を訪れる富士講の現況、山三講石碑調査

(2) 名勝及び天然記念物「白糸ノ滝」整備事業（企画部富士山世界遺産課主管事業）

世界遺産富士山の構成資産となった名勝及び天然記念物「白糸ノ滝」の整備を整備基本計画に基づいて実施した。整備に際しては、文化庁の指導のもと、学識経験者から成る整備委員会で整備内容の協議を重ねて進めた。

白糸の滝の南側から西側の高台にある白糸自然公園に至る連絡通路工事と、通路から富士山を望む展望場の設置工事を実施した。岩盤の崩落の危険性がある左岸階段下り口の斜面の地質調査を実施した。

また、便益施設及び指定地内の管理（草刈り等）については、地元の業者に委託して実施した。



写真 13 連絡通路



写真 14 展望場（連絡通路）

(3) 史跡「大鹿窪遺跡」整備事業

史跡「大鹿窪遺跡」（平成 20 年 3 月 28 日指定）について、適正な保全・公開・活用を検討するため、史跡大鹿窪遺跡整備基本計画策定委員会を開催した。また、史跡管理のため、指定地（約 6,600 m²）の草刈りを地元区に委託して実施した。

ア 史跡大鹿窪遺跡整備基本計画策定委員会の開催

開催日：平成 28 年 3 月 16 日（水）

内 容：保存整備事業計画、整備基本方針、平成 28 年度発掘調査計画の説明。

3 指定文化財保存管理事業

(1) 富士宮市文化財保護補助金の交付

「富士宮市文化財保護補助金交付要綱」に基づき、以下の通り市内指定文化財の管理・保存・活用事業に対して補助金の交付を行った。

ア 富士山本宮浅間神社本殿指定文化財管理事業

補助事業者：富士山本宮浅間大社

事業内容：国指定重要文化財「富士山本宮浅間神社本殿」の自動火災報知設備・消火設備（加圧式動力消防ポンプ）・避雷針の保守点検等の文化財管理事業を実施した。

イ 富士山本宮浅間大社社殿指定文化財管理事業

補助事業者：富士山本宮浅間大社

事業内容：県指定有形文化財「富士山本宮浅間大社社殿」の自動火災報知設備・消火設備（加圧式動力消防ポンプ）・避雷針の保守点検等の文化財管理事業を実施した。

ウ 火伏念仏保存活用事業

補助事業者：火伏念仏保存会

事業内容：市指定無形民俗文化財「火伏念仏」の太鼓修理・台座作製等を行った。

エ 寛妙寺のイヌマキ保存活用事業

補助事業者：橋上町内会

事業内容：市指定天然記念物「寛妙寺のイヌマキ」の土壌改良・園路造成等を行った。



写真 15 火伏念仏 太鼓修理（前・後）



写真 16 寛妙寺のイヌマキ 整備後

(2) 指定文化財保護対策事業

国指定特別天然記念物「狩宿の下馬ザクラ」、静岡県指定天然記念物「猪之頭のミツバツツジ」、同「西山本門寺の大ヒイラギ」の樹勢保持のため、平成 28 年 1 月～2 月に施肥・消毒等を実施した。

国指定史跡富士山である村山浅間神社の樹木保護のため、枯損木の切除を行った。



写真 17 狩宿の下馬ザクラ（施肥）

(3) 文化財防火デー

文化財防火デーは、国民全体の重要な宝である文化財を火災や震災などの災害から守るために昭和 30 年に定められたもので、毎年 1 月 26 日を中心に全国で文化財防火運動が実施されている。

市内では、浅間大社と大石寺で防火訓練が実施された。また、消防本部による消防設備の点検や、東京電力パワーグリッド（株）富士支社の協力による指定文化財建造物の漏電検査を行った。



写真 18 防火訓練（富士山本宮浅間大社）



写真 19 漏電検査（西山本門寺）

4 未指定文化財調査事業

市内で行われる種々の民俗行事について、実施状況や周辺地域との比較調査を行った。

表 2 平成 27 年度調査一覧

	名 称	月 日	場 所
1	初申祭	4 月 2 日	富士山本宮浅間大社、山宮浅間神社
2	盆行事（川供養）	8 月 15 日～16 日	富士川、芝川流域集落
3	どんど焼き・小正月行事	1 月 8 日～9 日	市内各所、山梨県山梨市、富士市、沼津市
4	庚申塔調査	2 月～3 月	市内各所

(1) 初申祭調査

日 時：平成 27 年 4 月 2 日（木）

場 所：富士山本宮浅間大社、山宮浅間神社

調査者：文化課学芸員 6 名

内 容：古くは大例祭とされ、浅間神社の祭神が鉾によりついで浅間神社と山宮浅間神社を往復する「山宮御神幸」などが行われてきた。明治時代初期を最後に両社の参拝のみ行われてきたが、平成 18 年に御鎮座 1200 年を記念し、有志により山宮御神幸を復興した。

現在は浅間大社で初申祭の神事を行った後、鉾を軽トラックに乗せ、山宮の御迎坂付近まで移動する。御迎坂から神官（祓い）を先頭に列を組み、山宮浅間神社遥拝所まで徒歩で鉾を運び、そこで祭礼を行う。



写真 20 行列（49 丁目石付近）



写真 21 祭礼の様子（山宮浅間神社）

(2) 盆行事(川供養)調査

日時：平成27年8月15日(土)～16日(日)

場所：市内各所(富士川・芝川流域集落)

調査者：文化課学芸員3名

内容：富士川・芝川流域では特徴的な盆行事が行われており、昨年に引き続き調査を行った。

内房尾崎集落では毎年8月16日にカワガンジイと投げ松明が行われていたが、子供が少なく、住民の負担が大きいため、本年度より投げ松明が行われなくなった。



写真22 オミコシ(カワガンジイ)を流す
(内房尾崎)

(3) どんど焼き・小正月行事調査

日時：平成28年1月8日(金)～9日(土)

場所：市内各所・山梨県山梨市・富士市・沼津市

調査者：文化課学芸員3名

内容：今年度は富士宮市北方の山梨県山梨市、南東の富士市、沼津市を調査対象とした。山梨市は道祖神信仰が盛んであり、現在でも道祖神に藁やスギの葉で小屋を掛けたり(オカリヤ)、道祖神の横に小屋を建てたりする。

富士市神戸集落では、道祖神を囲むように小屋掛けをする。コヤは竹やゴボウ締め、お飾りでできている。コヤの近くには、達磨を吊るした2本のオンベ竹が立つ。これは集落境の道切りと思われる。

富士市鶴無ヶ淵集落では、道祖神前にお飾りを出す。単体道祖神の後ろに丸太で作成した陽物が飾られる。新婚家庭を訪問し、この陽物を花嫁の尻に数回押し付けると子宝に恵まれるというが、現在も続けられているかは不明である。

沼津市原では、昨年度調査した静岡市蒲原地区と同様に砂浜にオンベ竹を立て、1月14日(現在は直近の日曜)の朝、周辺でお飾りを焼く。このオンベ竹は大小2本あり、1月2日に行われる「オンベコンベ」で使用されたものである。「オンベコンベ」とは、現



写真23 オカリヤ(山梨市七日市場)



写真24 コヤ(富士市神戸)

在富士市柏原から沼津市原にかけて行われており、大小の竹を子供が持ち、集落内を「おんべこんべ」と叫びながら練り歩く行事で、集落内の厄払いと、子供の健康を祈願する。道祖神との関連は確認できなかった。

山梨市や富士市に残る小屋掛けや、陽物の飾り物は、現在富士宮市内では確認できない。しかし、市内でもかつて行っていたという話もあり、今後の道祖神調査の参考にしたい。



写真 25 道祖神に出されたお飾りと陽物
(富士市鶴無ヶ淵)



写真 26 オンベ竹 (沼津市原)

(4) 庚申塔調査

日 時：平成 28 年 2 月～3 月

場 所：市内各所

調査者：文化課学芸員 3 名

内 容：市内の庚申塔について調査を行った。今回の調査では、92 基の庚申塔を確認した。市内では「庚申」・「帝釈天」などの文字や種字（梵字）・経典を刻む文字碑、青面金剛などの像を刻むものなどが見られる。また、「南無妙法蓮華経」と刻まれる、題目塔と習合した庚申塔も多い。

庚申信仰は、庚申日の夜、人体の中に棲む三尸の虫が、天帝に宿主の悪行を報告しないように徹夜して精進潔斎するという中国の道教の信仰で、江戸時代には各地で庚申講が組まれるなど、大変流行した。現在でも市内山本や橋場の庚申堂では祭りが行われている。



写真 27 寛永 21 年 (1644) の
庚申塔 (光町)

Ⅲ 埋蔵文化財事業

1 市内遺跡発掘調査事業（補助事業）

国・県の補助金を受け、埋蔵文化財の発掘調査（現地調査・資料整理）を以下のとおり実施した。

（1）史跡富士山「山宮浅間神社」（現地調査）

所在地：富士宮市山宮 740-1 ほか

期 間：平成 27 年 7 月 21 日から

平成 27 年 11 月 13 日まで

面 積：約 124 m²

目 的：史跡富士山「山宮浅間神社」整備に伴う発掘調査

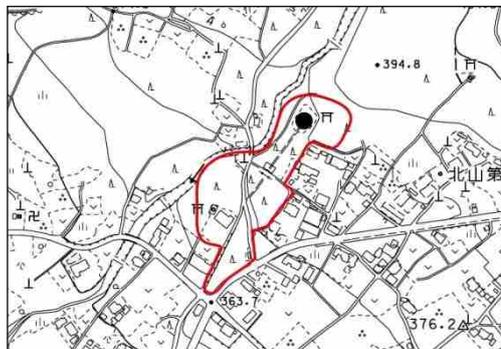


図 1 位置図 (S=1/10000)

《遺跡の概要》

山宮浅間神社の境内地を中心とした遺跡で、富士山本宮浅間大社の故地とされ、神体である富士山を直接拝む遥拝所が富士山の溶岩流末端の高台にある。遥拝所には石列が配置され、本殿等の建物がなく直接神体を遥拝する古代の祭祀形態が残されているとされている。平安時代末期から近世に至るまでの、祭事に関わる遺構や遺物が出土している。

《主な遺構・遺物》

中世・近世 遺構：階段跡・石列

遺物：土器・陶磁器・金属製品

《調査の成果》

遥拝所へ登る現階段周辺部及び、遥拝所内の玉垣周辺に対して 12 箇所のトレンチ調査を実施した。トレンチ 2 では、階段跡と推定される石積みが発見された。現階段を剥がした下からも一部確認された。遥拝所では、玉垣の周辺部では包含層は確認されたが明確な遺構は確認できなかった。玉垣内のトレンチ 6 では、石列の並びが発見された。遺物は、土師器を中心として陶磁器・銭貨等が出土した。



写真 28 土師器出土状況



写真 29 階段跡検出状況

(2) 史跡富士山「村山浅間神社・大日堂」(資料整理・報告書刊行)

所在地：富士宮市村山 1152-2

期 間：平成 27 年 4 月 15 日から平成 28 年 3 月 22 日まで

目 的：史跡富士山「村山浅間神社・大日堂」保存修理工事に伴う記録保存
《遺跡の概要》

村山浅間神社の境内地を中心とした遺跡で、修験道集落として発展した村山集落を範囲に含んでいる。

富士修験における富士登山の拠点となった場所で、村山口登山道の起点となっている。縄文土器や平安時代の住居跡も確認されている。

《調査の成果》

基壇部は、大日堂北側斜面を削平し平坦面を作り出し、その上に盛土で造成し、礎石を設置した。

解体前には存在が明確にされていなかった向拝の礎石及び見切石列が検出された。出土遺物等から、現在の建物の基礎は中世にまでは遡らないと考えられる。



写真 30 発掘調査報告書

2 発掘調査報告書作成

平成 25 年度に富士宮市教育委員会が実施した城山遺跡と大中里坂下遺跡の発掘調査報告書、『富士宮市の遺跡V』を刊行した。

(1) 城山遺跡

所在地：富士宮市元城町 1689

調査日：平成 26 年 1 月 28 日から
平成 26 年 2 月 25 日まで

面 積：約 264 m²

目 的：公園遊戯施設整備工事に伴う記録保存

《遺跡の概要》

浅間大社遺跡と大宮城跡背後の富士山方向の高台に位置し、城山公園とその北側を範囲とし、弥生土器・土師器が散布している。南側の浅間大社遺跡には、弥生時代後期の土器片が出土している。



写真 31 発掘調査報告書



図 2 位置図 (S=1/10000)

《主な遺構・遺物》

弥生 遺構：方形周溝墓

遺物：土器

《調査の成果》

弥生時代後期の方形周溝墓3基が検出された。方形周溝墓が発見された遺跡は市内で4例目である。潤井川対岸にあたる星山丘陵の滝戸遺跡などに対応する遺跡で、弥生文化の富士山側台地への進出の軌跡を知ることができる発見となった。

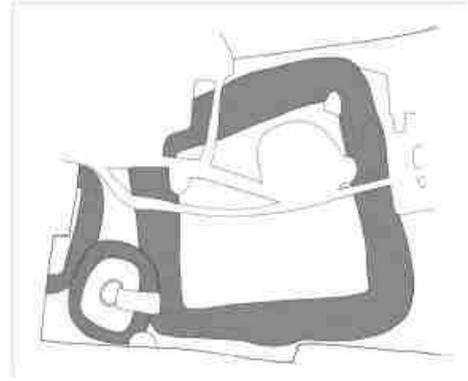


図3 遺構平面図



写真32 方形周溝墓



写真33 出土遺物（弥生土器）

(2) 大中里坂下遺跡

所在地：富士宮市大中里 867-1 ほか

調査日：平成26年2月3日から

平成26年3月28日まで

面積：約220 m²

目的：宅地造成工事に伴う記録保存

《遺跡の概要》

市内南西部の羽鮒丘陵と星山丘陵が接する北向きの緩斜面にある。大中里保育園北側一体を埋蔵文化財包蔵地とし、滝戸遺跡と並ぶ有力遺跡である。平成16年の発掘調査では多量の縄文土器・弥生土器・土師器が出土した。

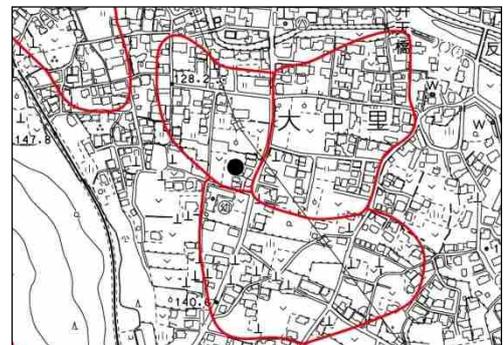


図4 位置図 (S=1/10000)

《主な遺構・遺物》

縄文 遺物：土器・石器

弥生 遺物：土器

《調査の成果》

遺構は検出されなかったが、遺物は表土層から地盤層までのほぼすべての層に混入しており、50mほど北側で平成16年度行われた発掘調査と同様の2次堆積層が広がっていた。遺物の量は多量であることから、遺跡の主体部は南方の高台に広がっていることが想定できる。



写真 34 完掘状況



写真 35 出土遺物（縄文土器）

3 史跡整備に伴う確認調査

史跡「富士山」の史跡整備に伴う埋蔵文化財の確認調査を以下のとおり行った。

表 3 史跡整備に伴う確認調査一覧表

番号	遺跡名	所在地	調査期間	調査面積	時代	主な遺構	主な遺物
1	浅間大社遺跡	宝町 1447-1	H27. 6. 22-25	15 m ²	中世・ 近世	なし	土師器、中世・ 近世陶磁器
2	山頂信仰遺跡 (浅間大社奥宮)	富士山 山頂	H27. 7. 21-22	20 m ²	中世・ 近世	礎石	なし
3	浅間大社遺跡	宝町 1447-1	H27. 9. 10- 10. 16	78 m ²	中世・ 近世	なし	土師器、中世・ 近世陶磁器、 銭貨

(1) 浅間大社遺跡（1回目）

《遺跡の概要》

境内より湧き出る湧玉池を中心に、それを取り巻く傾斜面と南に明ける平坦面(境内)を南北 500m、東西 200mの広域にわたって、包蔵範囲として知られる遺跡である。縄文時代から古代までの時代幅のある遺物が出土している。

《調査の概要》

倉庫建築に伴う事前の確認調査で、トレンチ 2 本を設定して行った。

《主な遺構・遺物》

中世・近世 遺物：土師器・陶磁器・銭貨

《調査の成果》

トレンチ1は、南側半分が現代の整地により新富士溶岩上まで削平されていた。北半は、黒褐色土と黒色土中から遺物の出土が確認された。遺物の内容から、黒褐色土層は中世～近世、黒色土層は中世の包含層と考えられる。遺構は認められなかった。

トレンチ2ではサブトレンチを設定し調査を行ったが、古富士泥流上部層は大半が造成土の堆積で遺構・遺物は確認できなかった。

工事予定範囲内では、トレンチ1周辺に包含層がある程度広がっていると考えられる。

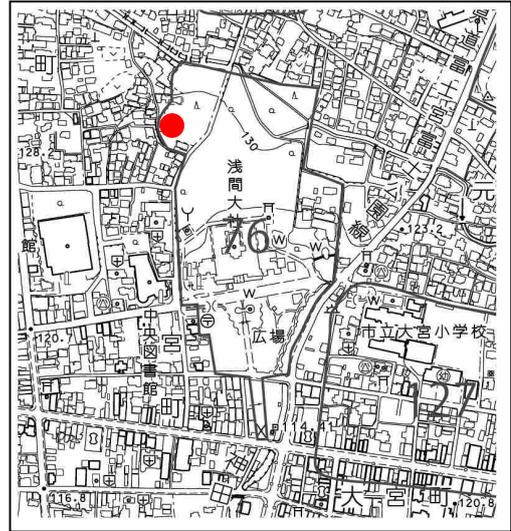


図5 位置図(S=1/10000)



写真36 トレンチ1完掘状況



写真37 出土遺物

(2) 山頂信仰遺跡（富士山本宮浅間大社奥宮）

《遺跡の概要》

富士山本宮浅間大社の奥宮で、富士山頂に位置する山頂信仰の神社である。

《調査の概要》

社殿建替に伴う事前の確認調査で、トレンチ1本を設定して行った。

《主な遺構・遺物》

なし

《調査の成果》

土の堆積がほとんど見られず、掘削を行うと直ぐ地山が検出された。また、解体した社殿の礎石・束石の測量調査も実施した。



図6 位置図(S=1/50000)



写真 38 礎石検出状況



写真 39 完掘状況

(3) 浅間大社遺跡 (2回目)

《遺跡の概要》

境内より湧き出る湧玉池を中心に、それを取り巻く傾斜面と南に明ける平坦面(境内)を南北 500m、東西 200mの広域にわたって、包蔵範囲として知られる遺跡である。縄文時代から古代までの時代幅のある遺物が出土している。

《調査の概要》

倉庫建築に伴う事前の確認調査で、建設予定の倉庫基礎部分の調査を実施した。

《主な遺構・遺物》

中世・近世 遺物：土器・陶磁器・銭貨

《調査の成果》

西側では、新富士溶岩が北東から南西方面へ流れており、その上に黒褐色土の中世及び近世の包含層が見られた。北側から北東にかけては樹木の根が密集しており掘削が困難であったため、サブトレンチを設定し掘削したが、遺構は確認できなかった。

東側は、新富士溶岩が地表面近くで確認され、土の堆積があまりなく、攪乱等現代の埋土堆積が殆どで包含層及び遺構は確認されなかった。

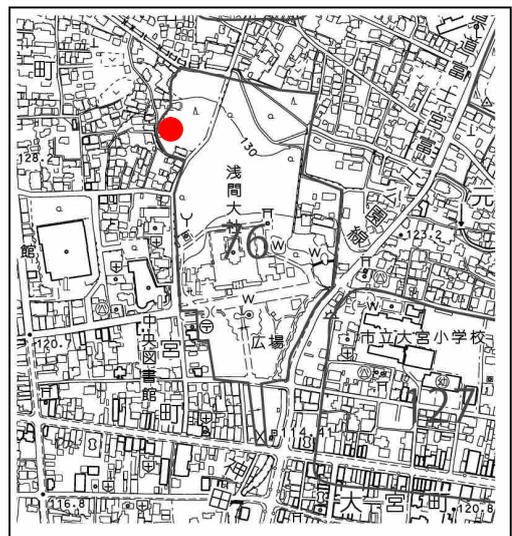


図 7 位置図(S=1/10000)



写真 40 西側完掘状況



写真 41 出土遺物

4 開発行為に伴う試掘・確認調査

開発行為に伴う埋蔵文化財の試掘・確認調査を以下のとおり行った。

表4 開発行為に伴う埋蔵文化財の試掘・確認調査一覧表

番号	遺跡名	所在地	調査期間	調査面積	時代	主な遺構	主な遺物
1	野中向原遺跡	野中字向原 365-1	H27. 4. 9	28 m ²	縄文～古墳	なし	なし
2	三ツ室遺跡	小泉字三ツ室 1380-1 ほか	H27. 4. 16	42 m ²	縄文・古墳	なし	なし
3	田中遺跡	田中町 895-5 ほか	H27. 5. 20	13 m ²	弥生	なし	なし
4	箕輪B遺跡	大岩 1407-1	H27. 6. 16	10 m ²	縄文・古墳	なし	なし
5	泉遺跡	泉町 645	H27. 6. 18	1 m ²	縄文～古墳	なし	なし
6	蟹入越遺跡①	小泉 79-2	H27. 6. 30	21 m ²	縄文～古墳	なし	なし
7	荻間遺跡	小泉 572・573・576～578	H27. 9. 14	4 m ²	弥生・古墳	なし	なし
8	峯石遺跡	大岩 912-1・2、915-1	H27. 10. 7	15 m ²	縄文・古墳・奈良	なし	なし
9	月の輪上遺跡	星山字月ノ輪 992-12	H27. 10. 20	10 m ²	縄文～古墳・中近世	なし	なし
10	蟹入越遺跡②	小泉 106-1・2	H27. 11. 4	3 m ²	縄文～古墳	なし	なし
11	根方遺跡	大中里 1789-1・4	H27. 12. 4	4.5 m ²	古墳	なし	なし
12	東田遺跡	淀川町 124	H27. 12. 17	5 m ²	弥生・古墳	なし	なし
13	権現遺跡	小泉 227-1	H27. 12. 18	5 m ²	縄文・古墳・奈良	なし	なし

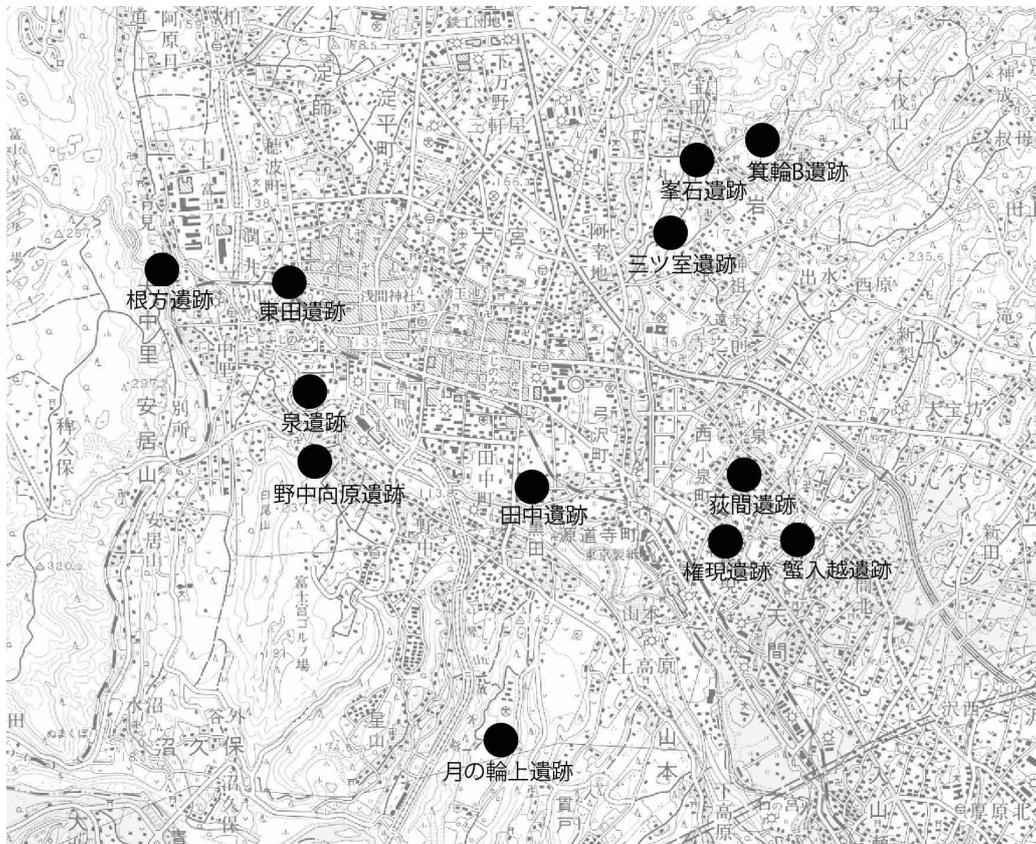


図8 確認調査実施箇所位置図 (S=1/50000)

(1) 野中向原遺跡

《遺跡の概要》 星山丘陵の北辺に聳える白尾山を背にした北向きの緩斜面に位置する。縄文時代中期～後期遺物の主体が山寄りであり、他は全面に弥生～古墳時代の土器の散布が濃密に認められる。

《調査の概要》 宅地分譲に伴う事前の確認調査で、トレンチ2本を設定し掘削を行った。

《主な遺構・遺物》 なし

《調査の成果》 弥生・古墳時代の包含層は、近年の畑地造成の際に掘り抜いたと考えられ、堆積が認められなかった。縄文時代の層も上層と下層が攪拌した堆積状況で、遺物・遺構共に確認されなかった。



写真 42 トレンチ 1 完掘状況



写真 43 トレンチ 2 完掘状況

(2) 三ツ室遺跡

《遺跡の概要》 大沢川東岸に位置し、縄文時代前期～後期、弥生～古墳時代の遺物の散布が確認されている遺跡である。

《調査の概要》 宅地分譲に伴う事前の確認調査で、トレンチ2本を設定して調査を行った。

《主な遺構・遺物》 なし

《調査の成果》 古墳時代の包含層は、近年の水田造成の際に掘り抜いたと考えられ、堆積が認められなかった。トレンチを半裁して縄文時代の層を確認したが、東側に向かって落ち込んでおり、旧地形は谷地形であったと考えられ、遺構・遺物共に確認されなかった。



写真 44 トレンチ 1 完掘状況



写真 45 トレンチ 2 古墳時代遺構確認面

(3) 田中遺跡

《遺跡の概要》 潤井川湿地帯内の微高地上に位置する。宅地開発等に伴って弥生時代後期の土器が多く出土している。

《調査の概要》 宅地分譲に伴う事前の確認調査で、トレンチ2本を設定して行った。

《主な遺構・遺物》 なし

《調査の成果》 表土下は旧耕作土と造成土が厚く堆積しており、その下は古富士泥流であり、包含層は存在していなかった。遺構・遺物共に確認されなかった。近年の田畑造成の際、包含層が削平されたと考えられ、遺跡が部分的に失われた個所と考えられる。



写真 46 トレンチ1 完掘状況



写真 47 トレンチ2 西壁土層断面

(4) 箕輪B遺跡

《遺跡の概要》 サギ川の左岸に位置する縄文時代、弥生～古墳時代の遺跡である。西側に位置する箕輪A遺跡とともに、豊富な土器・石器の出土がみられ、特に縄文時代中期～後期の遺物の出土が多くみられる。

《調査の概要》 個人住宅建築に伴う事前の確認調査で、トレンチ1本を設定して行った。

《主な遺構・遺物》 なし

《調査の成果》 土層堆積は耕作土、整地層、その下は古富士泥流直上の褐色層で、包含層は存在していなかった。地主によれば、当該地を中心とした一帯は、15年ほど前の田圃造成の際に、水はけを良くするために礫混じり土を入れ整地したとのことであり、遺跡が部分的に失われた箇所と考えられる。



写真 48 トレンチ完掘状況



写真 49 トレンチ2 西壁土層断面

(5) 泉遺跡

《遺跡の概要》 富士山の南西方向に下る裾野末端部の微高地上に位置する。縄文時代後期、弥生時代後期、古墳～平安時代の遺物の出土が確認されている。

《調査の概要》 個人住宅建築に伴う事前の確認調査で、トレンチ1本を設定して行った。

《主な遺構・遺物》 なし

《調査の成果》 土層堆積は耕作土の下が古富士泥流直上の褐色層であり、包含層は存在しておらず、遺構・遺物は確認されなかった。畑地造成の際に包含層が失われたと考えられる。



写真 50 トレンチ完掘状況



写真 51 南壁土層断面

(6) 蟹入越遺跡 ①

《遺跡の概要》 標高 100～110m間の南北 200m、東西 120mの緩やかな丘陵上に位置する遺跡で、縄文時代中期～後期、弥生～古墳時代の遺物の出土がみられる。

《調査の概要》 集合住宅建築に伴う事前の確認調査で、トレンチ2本を設定して行った。

《主な遺構・遺物》 なし

《調査の成果》 トレンチ1は、4層暗褐色土（栗色土層）以上を欠き、東側半分を径4m程の風倒木痕によって攪乱されており、遺構・遺物は確認されなかった。トレンチ2は、耕作土以下に当地の標準土層が堆積するが、遺構・遺物は確認されなかった。よって、本計画地に遺跡は及ばないものと判断される。



写真 52 トレンチ1完掘状況



写真 53 トレンチ2完掘状況

(7) 荻間遺跡

《遺跡の概要》 荻間沢の左岸の小高い丘陵上に位置している、弥生時代後期～古墳時代初頭を主体とする遺跡である。

《調査の概要》 土壌改良に伴う事前の確認調査で、トレンチ2本を設定して行った。

《主な遺構・遺物》 なし

《調査の成果》 計画地は、南向きの狭い尾根の先端を水田に開墾した場所で、すでに弥生・古墳時代の包含層を欠いていた。周辺の耕作地での表面観察でも遺物は確認されていない。よって、本計画地では既に遺跡が消滅したものと判断される。



写真 54 トレンチ 1 完掘状況



写真 55 トレンチ 2 完掘状況

(8) 峯石遺跡

《遺跡の概要》 大沢川中流域の西岸に位置し、縄文～古墳時代までの遺物が出土している時代幅の広い遺跡である。

《調査の概要》 宅地分譲に伴う事前の確認調査で、トレンチ2本を設定して行った。

《主な遺構・遺物》 なし

《調査の成果》 計画地は南向きの丘陵で、中央寄りにトレンチ1、西側斜面寄りにトレンチ2を設定した。両トレンチとも茶畑による土地改良が著しく、トレンチ1に確認される縄文時代包含層（栗色・暗褐色土）の下部も安定した堆積を示すものではなく、遺構・遺物共に確認されなかった。



写真 56 トレンチ 1 完掘状況



写真 57 トレンチ北壁土層断面

(9) 月の輪上遺跡

《遺跡の概要》 星山丘陵の上部平坦面を南北 700m、東西 200mにわたって包蔵範囲とし、北半分に弥生～古墳時代、南半分に縄文時代を主体とした分布が認められる遺跡である。昭和 52 年～平成元年までの度重なる調査で、弥生時代後期の環濠集落の存在が明らかになっている。

《調査の概要》 個人住宅建築に伴う事前の確認調査で、トレンチ 1 本を設定して行った。

《主な遺構・遺物》 なし

《調査の成果》 計画地は遺跡西側の微高地の一角で、傾斜に沿ってトレンチを設定した。土の堆積は、古富士泥流の上部漸移層までかつての耕作が及んでおり、さらに上部は近年の土地改良による盛土がされていた。遺物・遺構は確認されなかった。



写真 58 トレンチ完掘状況



写真 59 北西壁土層断面

(10) 蟹入越遺跡 ②

《遺跡の概要》 標高 100～110m間の南北 200m、東西 120mの緩やかな丘陵上に位置する遺跡で、縄文時代中期～後期、弥生～古墳時代の遺物が出土している。

《調査の概要》 個人住宅建築に伴う事前の確認調査で、トレンチ 1 本を設定して行った。

《主な遺構・遺物》 なし

《調査の成果》 計画地は遺跡の西南端である。表土層を除去すると、縄文時代中期以後の包含層は、過去の田畑地造成により失われていた。縄文時代早期・前期の包含層である暗褐色土層は残っていたが、遺構・遺物ともに確認されなかった。よって、当該地は過去の造成により遺跡が失われた部分と判断される。



写真 60 トレンチ完掘状況



写真 61 北壁土層断面

(11) 根方遺跡

《遺跡の概要》 富士フィルム富士宮工場裏の丘陵根方部分に位置する、弥生時代後期～古墳時代前期の遺跡である。丘陵側で遺跡の分布が顕著にみられる。

《調査の概要》 集合住宅建築に伴う事前の確認調査で、トレンチ1本を設定して行った。

《主な遺構・遺物》 なし

《調査の成果》 計画地は遺跡の中央北寄りである。トレンチを1箇所設定し調査を行ったが、畑地のための造成土が2.5m以上の深さで堆積しており、遺物・遺構とも確認できなかった。よって、当該地は遺跡の空白部分と判断される。



写真 62 トレンチ完掘状況



写真 63 北壁土層断面

(12) 東田遺跡

《遺跡の概要》 富士山側からの扇状地形が舌状に潤井川にせりだした部分に位置する。弥生時代～古代の遺物が出土している。

《調査の概要》 不動産鑑定に伴う事前の確認調査で、トレンチ1本を設定して行った。

《主な遺構・遺物》 なし

《調査の成果》 表土を剥ぐと、潤井川が形成した沖積地盤層が検出され、弥生・古墳時代の包含層は存在していなかった。遺物・遺構とも確認されなかった。



写真 64 トレンチ完掘状況



写真 65 トレンチ土層堆積状況

(13) 権現遺跡

《遺跡の概要》 富士山より下る台地が潤井川を作る沖積湿地帯にせりだした末端に位置しており、古墳時代初頭の集落遺構が確認されている。また、縄文時代中期の土器片も確認されている。

《調査の概要》 個人住宅建築に伴う事前の確認調査で、トレンチ1本を設定して行った。

《主な遺構・遺物》 なし

《調査の成果》 調査地は、遺跡の東端部である。表土を剥ぐと、耕作土が検出され、そのすぐ下からは地山が検出され、包含層は既に失われていた。よって、対象地は遺跡が失われた部分と考えられる。



写真 66 トレンチ完掘状況



写真 67 トレンチ土層堆積状況

5 富士宮市埋蔵文化財センター

発掘調査で出土した遺物を収蔵保管し、整理作業を行っている。また、展示室では市内の遺跡・史跡の展示をしている。

(1) 施設概要

所在地：富士宮市長貫 747-1

電話番号：0544-65-5151

FAX番号：0544-65-2933

駐車場：50 台

開館日：平日（祝日・年末年始休館、土・日曜日は団体のみ（要事前連絡））

開館時間：9:00～17:00

見学料：無料

展示内容：旧石器時代から中世・近世の各時代出土資料、市内主要遺跡の紹介、史跡富士山関連遺跡発掘調査出土資料



写真 68 展示室

(2) 企画展示

埋蔵文化財センター開館1周年記念「山宮浅間神社遺跡発掘調査報告」展（巻末資料 i）

期間：平成 27 年 7 月 1 日（水）から平成 27 年 9 月 25 日（金）

内容：平成 24 年・25 年の山宮浅間神社遺跡発掘調査成果の紹介。